

議 長  々	<p>会議を再開いたします。 (午後2時05分)</p> <p>続いて、高良議員の一般質問を行います。3番高良議員。</p>
3番 高良議員	<p>皆さんこんにちは。今日はたいへん良い天気で見ると過ごしやすいなと思う反面、先ほどありましたように農業している者としては天気が続くと思われ尻を叩かれていたような気持ちになるのも事実でございます。</p> <p>それでは、通告書に従いまして、一般質問を行います。この度の私の一般質問は3点でございます。</p> <p>まず1点目、「児童生徒の学力向上策について問う」で、ございます。令和元年度学校基本調査(確定値)によると、高等教育機関への進学率は、高等教育機関進学率、大学・短大進学率、大学(学部)進学率において過去最高となり、専門学校進学率も昨年より上昇している。このような状況の中で、この川本町に育った子ども達が、自分の夢や希望を叶えやすくするためには、今以上の学力が必要だと考えるが、町の考えを問う。</p> <p>2番目、「高齢者の生活を守る施策について問う」。</p> <p>高齢者の中には移動が困難な方が見受けられる。このような方と話をすると、まげなタクシーがあるから助かる、これが無かったら何処へも行けないと話されます。ただもう少し年を取ると町の中を歩くことも不安になるとも言われます。高齢者の病院から商店への移動の手助け、休憩用ベンチの設置、まげなタクシーの待合場所の確保や、食料品や生活必需品の移動販売も視野に入れていく事が、これからの高齢者の皆様の生活を守ることに繋がると思うが、町の考えを問う。</p> <p>3番目、「人口問題について問う」。</p> <p>先日の新聞記事によれば、郡内他町が人口の社会増減が減少する中で、当町だけが3人増となっていた。当町が社会増となった要因を町としてどう考えているのか、また今後、人口問題にどう対処していくのかを問う。以上でございます。</p>
議 長	<p>それでは、高良議員の質問のうち1項目目の「児童生徒の学力向上策について問う」に対する、答弁をお願いします。番外瀬上教育課長。</p>
番外瀬上教 育課長	<p>高良議員の「児童生徒の学力向上策について問う」のご質問についてお答えします。児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するためなどの目的で全国学力・学習状況調査、いわゆる全国学力テストと島根県学力調査が毎年実施されています。これまでの調査結果の分析から、「主体的・対話的で深い学び」の実施や落ち着いた学級づくりが、子供たちの非認知能力などを高め、そこから学力向上につながるということが分析されています。川本町においても調査結果を考察及び活</p>

番外瀬上教  
育課長

用し、授業改善や学校運営等について改善策を講じています。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、協同的な学習としての学び合い学習、ICT機器の活用、キャリア教育の視点にたった授業改善などを行っています。特に学び合い学習については、今年度から中学校においても本格的に導入し、小中9年間でしっかりとした学びに向かう集団づくりを目指しています。この他に生活支援員、学力向上支援員、外国語指導助手など各種支援員を町単独予算で配置し、きめ細かい指導を行うことで子供たちの確かな学力を定着できるように取り組んでいます。また子どもの学習のつまずきへの指導については、それぞれの子どもが抱える課題に応じた指導の手だてを講じたり、じっくりと学ぶことができる学習の場や機会を設けたりすることが大切です。このため、放課後に空き教室を活用して学力向上支援員が個別対応し学習の定着を図る取り組みも行っています。また学力を向上させるためには、日々の授業を集中して受けることも大切ですが、それと同じくらいに、学校で習ったことを復習したり、予習したりする家庭での勉強も大切です。そこで基礎・基本の定着など児童生徒の学力向上を図るため、家庭学習の手引きで担任から指導を行っています。また自学ノートコンテストを小学校では毎学期行い、早期の定着を図っています。その他、子育てサポートセンターと連携し自学学習支援を行うなど、家庭学習の充実に力を入れています。その他に町単助成事業として自らの学び応援事業では、英語検定費用の助成を継続しています。中学校では学校ぐるみで英検にチャレンジしていますし、小学生向けの英検ジュニアの検定とその事前学習会の実施など、早期から外国語の学習に取り組む意欲の醸成と環境の充実につながる事業を展開しています。川本町の子ども達になりたい自分になるために、将来の選択の幅が広がるように、義務教育での学力の定着に向け、引き続き、学校、家庭、地域と連携して取り組んでいくことが大切だと考えています。以上です。

議 長

ただいまの答弁に対して再質問ありますか。はい、3番高良議員。

3番  
高良議員

今お聞きした答弁は校内学習に関するものが主と聞きました。学力の向上には、要は質と量の積ですね、積というのは掛け算ですね、という事で成り立つと言われていました。今、お聞きしましたように校内学習につきましては、この間、行われました保護者に対するアンケートでも、これは小学校でしたけど、小学校でやっておられる事を肯定的に捉えられております。ただ、この学校内だけの学習だけでは学力の向上にはなかなか結び付かないというのも、私は事実であろうと思います。何を指すかというところですが、言いたいこととしては、要はいちばん子供たちが最後に辿り着くところは、やはり受験というものに行きつきます。この受験というものに皆さん、ご承知とは思いますが、全国の子供たちが同じ土俵の上で勝負をしなければなりません。その時にこの川本でいくら成績が良くても、それは井の中の蛙になっていることが少なくありません。そういう事がないように全国の子どもたち

3番  
高良議員

と自分の目標を掴むために競争するわけですから、そこで使える言いますか、役に立つような学力をつけてあげたいと思うのが、私でございます。その全国の状況ですが、通塾率というのがあります。塾へどれだけ通っているか、これも文科省の調査によって出ているわけですが、公立小学校で37.8%、私立は69.1%。公立中学校は68.9%、私立中学校54.8%。公立高校が35.4%、市立高校が43.6%という数字が出ております。全国ではこういうような状況にあるわけですが、この川本町においては、その現在、塾の数も少ない。なかなか通っている子どもも少ないという状況ですが、その中でも今までは塾の通う費用に対しての補助があったわけですが、これは来年度から無くそうという話が聞こえてきましたが、これはなぜ、そういう事になったのかの説明を求めます。

議 長

番外瀬上教育課長。

番外瀬上教  
育課長

先ほど高良議員が仰ったのは自らの学び応援事業の中での、塾助成の部分だと思います。このものに関しましては仰るとおりに令和2年度からについては予算の方を計上しておりません。自らの学び応援事業で塾を助成した当初の目的と致しましては、学習塾に係る費用の一部を助成する事で、家庭学習における経済的負担を軽減し、自ら学ぶ意欲のある子ども達の学習機会の提供と、個々の学力の向上支援をする事という事で、目的を持って行っておりました。実際に平成28年度から実施をいたしまして、多くの申請もいただいたところでございます。そうではあるんですけども、実際のところ当初は町内の塾の数も減っているのはあるんですけども、多くの方に利用していただけるという思いでおりました。そうではあります、実際のところ当初28年に始めた時には、約17%という事で小中学生の中で17%の方がご利用されたと。そのあと年々減っていきまして、令和元年度という事で今年度でしたけれど12%ぐらいという事で、その広がりが見えていないという事がございます。そういったところでこの学習塾の助成が本当に良いのかというところで中の方でも検証いたしまして、この事については令和2年度については予算については見送ろうという事で結論を出したところでございます。決してこれまでの学習塾の支援が悪かったという事は思っておりません。ただ予想したよりもその広がりが少なかったという事が、宣伝したにも関わらずだったんですけども、そこがちょっと残念だったなというところでございます。以上です。

議 長

再質問ありますか。3番高良議員。

3番  
高良議員

私が思うに今、理由は分かりましたが、だからと言ってそれをやめるというよりは、じゃあ次に何をすることが決まるまでは、今のまま続けて新しい事に、それは塾の支援ではなくなるのかも知れないけれども、子どもの学力向

3番  
高良議員 上に繋がる次の施策が出来てからでも良いのではないかとと思いますが、どう考えておられますか。

議 長 番外瀬上教育課長。

番外瀬上教  
育課長 先ほどのなぜ予算を取り止めたかという事でございます。予算をいろいろ検討した中で、予算編成方針についてご存知かと思うんですけども、そういった中でも町の財政としては非常に厳しくなっているというところがございます。そういった中で町長が替わるという事もありましたので、骨格的予算の中では今回この事業については、当初はスクラップという事で予算の計上を見送ったところでございます。

議 長 3番高良議員。

3番  
高良議員 これは、そんなに予算係ってましたかね。ちょっとその辺の、例えば今年度は未だ出ていないかも知れませんが、昨年幾ら掛かりましたか。

議 長 番外瀬上教育課長。

番外瀬上教  
育課長 金額的には、100万程度だという事でございます。

議 長 3番高良議員。

3番  
高良議員 財政が苦しいと言われましても、金額的にはそのぐらいのものです。それで現在、12%でも通っておられる子どもさんがおられるわけですよ。小学校・中学校をトータルして約200人としても12%で約20人ぐらいは通われているわけですから、それを少ないからといって、私は切るべきものではないと考えます。今、通われているお子さんは必ずこれは学力にプラスになっているはず。それを仮に一人二人でも少しでも学力がついてくる子どもが出てくる事が、その全体のトータルよりも一人でも二人でも十人でも二十人でも出てくる方が私は大事だと思うのですが、私の考えは違うんでしょうかね。

議 長 番外瀬上教育課長。

番外瀬上教  
育課長 私の先ほどの話し方が、予算が無いから無くしたというような感じで受け止められていて、たいへん申し訳ないと思っております。予算編成についてのところでもあったわけですが、実際のところ先ほど最初の答弁のところでも申しましたけれども、学習塾というよりもやっぱり家庭学習といったところの充実が非常に大切ではないかというふうに思っております。そういった

番外瀬上教育課長	中で、今回のことにつきまして利用されている保護者はいらっしゃる訳なんですけれども、その費用について今回は見直しをして、そういった家庭学習での充実とか、そういったところを今後、打ち出していければというふうに思っております。
議 長	3番高良議員。
3番高良議員	家庭学習の充実というのは、そこまで言われるんでしたら具体的には何か考えておられるのでしょうか。
議 長	番外瀬上教育課長。
番外瀬上教育課長	具体的なところにつきましては、未だお話しできる程度じゃございませんので、今後、学校ともいろいろ話をしながら中でも、教育委員会の中でも検討しておりますので、取り組んでいきたいというふうに考えております。
議 長	3番高良議員。
3番高良議員	子どもの学力のことですが、先ほど来、人口問題のところに出てましたけれども、私も後ほど人口問題をちょっとお伺いしているわけですが、外から今、定住住宅を建てまして、入居条件が子供が居られる方とか子供ができる可能性のある方というようなことで、募集をかけて、実際に子どもさんたくさん定住住宅におられます。そういう方々も将来、川本町で教育を受けていかななくてはならない。その教育だけにかかわらず、人口問題、定住問題ともこれは絡んでくるわけですよ。そういう事もトータルで考えて、町としては学力向上あるいは学習環境へこういう事が、他町と違う良いところがありますよと。こういう独特な施策がありますという事も示していくということが私は、これが地元の子どもにとっても役に立っていく事と思うのですが、そういう広い考えの取り組みというのは考えていくというような予定はありますか。町長か副町長、教育長でも良いですが。
議 長	はい、番外鉦教育長。
番外鉦教育長	言われる事はよく分かります。それでですね、やはり教育委員会としましても子どもの学力向上につきましては、本当に非常に大事な事だと思っております。それにつきましては、今出来る限りのところでですね、当然、予算の問題もありますし、そういった事ではありますが、やはり出来る限りのところで前向きな形で検討していきたいというふうに考えております。それとやはり学校の先生方も見てみますと、本当に非常に熱心にですね、子ども達に勉強を教えると言いますか、そういった形で努力されております。やはり私

番外  
鉦教育長

も今の学力向上、所謂そういった事がよく考えて何が大事かなと言うふうに考えた時に、やはり一番大事なのは子ども本人の本気度というか、やはり勉強しなければいけないという所謂そういう本気度、その事がすごく大事だと思います。ですから親御さんは、そういった子どもに対して飴と鞭じゃないですが、やはり子ども達に切磋琢磨をしながら家庭でもそういう環境づくりと言いますか、そういったものを作っていくとか、そういった事が大事なんじゃないかなというふうに考えております。ただそういった先ほどの話の中で、塾の助成が無くなったとかという話もありますが、やはりいろいろと試行錯誤をしながらですね、やってみてこれはちょっとあれだなと思ったら、次の事を考える。やはりそういった発想をしていくという事も、もちろん大事な事だというふうに考えております。、以上です。

議 長

はい、3番高良議員。

3番  
高良議員

分かりました。それではちょっと方向を変えて聞きましょうかね。2番議員さんでしたか、いつか言われた事があると思うんですが、今コロナウイルス対策で学校が休みになっていると。川本にはF T T Hがあるから、それで勉強のあれを流したらどうかという提案がありました。これを要は塾と言いますか、そういう学習に役立つ放送を、これで定期的に流すというような事は考えられないのでしょうか。年間を通して。

議 長

番外鉦教育長。

番外  
鉦教育長

まげなねっともですね、実は今、町内で80%ぐらいですか、今の普及率が。そうすると一般的に考えた時に、それをやって不公平が出ないだろうかと、いろいろ考える事があるわけですが、ただそういうやり方も実は邑南町さんあたりも今回のコロナの関係で、やるとかやらないとかいう話も実はあるんですが、川本町としては今のコロナの事に関しては、その事はやりませんが、年間を通してという事になりますと、そういった普及率なんかも考えながら、それはちょっと検討というか、そういう課題にさせていただきたいというふうに思っております。

議 長

3番高良議員。

3番  
高良議員

普及率は私は別に問題ないと思うんですよね。見たかったら付けていただければ良いんで、ただそれだけです。必要のない方は別に必要ないでしょうし、子どもさんが居られない家庭にわざわざひいてもらう必要もないですし、というような事は私は思います。先ほど言われた本人がやる気にならなきゃ出来ないという事は良く分かるんですが、今の授業の小学校でも中学校でも一緒ですが、競うとか争うという事をあまり教えないんですよね。みんな

3番  
高良議員

助け合おうというのが学習の基本です。先ほど瀬上課長が言われてましたように、それは今年度から小学校に始まる新しい学習指導要領でも、きめ細かな指導で、基礎・基本や自ら学び自ら考える力を身に付ける。発展的な学習で、一人一人の個性等にに応じて子どもの力をより伸ばす。学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高める。ここに学習意欲を高めるというのが出てきます。学びの機会を充実し、学ぶ習慣を身に付ける。確かな学力の向上のための特色ある学校づくりを推進すると、こういう事が新学習指導要領で謳われているわけです。我々の時代は、あいつには負けたくないとか、こいつには負けたくないとかという、そういう気持ちが心の底にあって頑張ったものです。だけど今の子は、それは全く見えません。家の子を見ていても見えません。そういう子になかなか勉強が楽しいと思わせるまで、知識を付けさせたり、ものが分かるようにしていくのは大変な努力がいります。なかなかそこまでいきません。これが私ほどここの家庭も実情だと思います。そういう事を考えると、例えば今のまげなねっとでやっている事をひとつ見て「あっ、面白そうだな」と、子どもがひとつを目に留めて勉強に繋がる機会になっても良いと思うので、そういう事をしっかり考えていただいて、まげなねっととは言いませんけれども、学校がやるのは基本中の基本ではございますが、やっぱり町としても子ども達を伸ばすのに、何が出来るかというところを考えて、やっぱりそういう施策と言いますか手立てを何かやって欲しいなと思っておりますが、如何でしょう。

議 長

番外釧教育長。

番外  
釧教育長

言われる事も本当に良く分かります。教育委員会としましても、やはり出来る限りの先ほども申しましたように子どもさんの学力が上がるような形で、教育委員会の方も出来る限りの支援はしていきたいと思っておりますし、また学校の方でもですね、やはり先生方も一生懸命、日々頑張っておられますので、やっぱりその辺も尊重していきたいというふうに考えております。以上です。

議 長

再質問ありますか。

(「はい、いいです。」の声あり)

この項目は終わってよろしいですか。

(「はい」の声あり)

々

以上で、1項目めの「児童生徒の学力向上策について問う」の質問を終了いたします。

々

次に、2項目めの「高齢者の生活を守る施策について問う」に対する、答弁をお願いします。番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

高良議員ご質問の「高齢者の生活を守る施策について問う」にお答えいたします。本町の公共交通は、スクールバスやまげなタクシーの運行に加えて、田水・畑野・芋畑地区についてはタクシー料金を助成することで、交通空白地域の解消に取り組んでおります。さらに、来年度からは、高齢による運転免許証返納者に対し、スクールバスに無料で乗車できるフリーパスを貸与する移動支援を開始することとしております。しかしながら、町の中心部までの移動が確保される一方で、弓市地区の行政・病院・店舗・金融機関への移動手段は徒歩に限られることとなり、議員ご指摘のとおり、高齢者には厳しいものであると考えております。こうした状況は本町に限らず、県内には、限られた地区内の移動を支援する新たな公共交通として、低炭素型モビリティを導入した自治体がございます。これは電動ゴルフカートなどを活用した時速 20 km未満で公道を走る4人乗り以上の電気自動車で、「グリーンスローモビリティ」と総称される乗り物でございます。この乗り物は、高齢者の移動手段としてだけでなく、例えば、石見銀山において、観光客を移動させる手段としての実証運行が行われております。本町においても地区内の移動だけでなく、ちょうどこの時期のイズモコバイモの開花時期などにおいては、公共交通を利用され来町される方々の移動手段として、利用が想定されることから、導入に向け研究してみたいと考えております。

また、まげなタクシーの待合場所につきましては、ほとんどの方の乗車場所が加藤病院、Aコープ、道の駅、川本駅であります。Aコープには待合場所がありませんので、タクシー運行を委託している事業者の待合場所を、提供していただくよう依頼をしております。高齢者に向けた生活必需品の移動販売につきましては、小売事業者の事業活動の中で展開されるよう期待するところですが、まちづくり意見交換会などで、町民の方々からの意見を伺い、必要に応じて商工会など関係する機関と協議したいと考えております。

議 長

ただいまの答弁に対して、再質問ありますか。3番高良議員。

3番  
高良議員

この質問は以前にも同じような質問をした事があるわけですが、以前は産業振興課の答弁で、それは違うだろうと思いましたが、この度は、まちづくり推進課長の答弁をいただきましたので、少し安心しているところではありますが、その中でいろいろ話は伺ってはみるんですが、要は病院に行ったついでに買い物もして帰るとい方が殆どです。そうすると病院の近くの商店で買い物をされれば良いわけですが、なかなか希望の物が有るとか無いとかいろいろ話は聞くわけです。そうするとどうしてもちょっと歩いて大きい店舗へ行きたいという事になるようです。その時になかなか歩いていくのが、途中で休みたい時もあるが、休めないという話はこの間も聞きました。この間聞いた方が、まげなタクシーを農協の前で乗るように予約しているんだけど、ちょっとここで休ませてくれと或る商店に入られました。そういう現状がありますので、何とか皆さんがちょっと腰を下ろして休めるような場所を

3番  
高良議員 いろいろな方の協力を得ないと出来ないと思うのですが、そういう所を何か所か作ってあげれば良いのかなと思ったので、こういう一般質問をしているわけですが、どのみちこの高齢者の問題というのは、今だけやったら終わるわけではなくて、将来に続いて今からずっとこれから出てくる問題だと思えますので、特に所謂、団塊の世代と言われる方が、移動困難になるような時期をまだまだ迎えていませんが、そういう方がそうなる前に何らかの事を考えていた方が良いのではないかなと、私は思うわけです。その来年度で、まげなタクシーの運行経路を減らすというような話が、この間、予算委員会の中で聞こえてきましたが、ちょっとその辺をもう一度、説明をして下さい。

議 長 番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本まちづくり推進課長 これは東方面、所謂、三大字方面・馬野原方面に走っているまげなタクシーの運行回数を一日減らす。今は月曜日と木曜日に運行をしているというところでございます。運行した当初は月曜日だけの運行でございました。それが自治会からご要望がございましたので、一昨年もう一日を木曜日を増やしたと。自治会長にも話しをしておりましたが、やはりその非常に経費の掛かるところでございますので、たくさん乗って下さいというお願いもしたところでございます。ただ実際に運行してみると非常に数が少なかったという事と、非常に乗られている方も絞られると言いましょか、そうであれば決してデマンドタクシーだけで支援をするというよりも、また違う形の支援があるんだろうという事を担当課で検討している、これが所謂タクシー助成とか、そういった方向での支援という事になりますが、やはりデマンドタクシーを一日運行一年間走らせると、やはり百数十万の運行経費が掛かってまいります。そういった事を勘案して限られた財源の中で、公共交通を運行していくという立場から決してその支援を止めるという事ではございませんが、また違う方向での支援を検討するというところでございます。

議 長 再質問ありますか。3番高良議員。

3番  
高良議員 タクシー助成をするという事と理解してよろしいですね。

議 長 番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本まちづくり推進課長 これは担当課としては、当該地区だけを対象とするという事ではなくて、これも少し町全域的に考えた方が良いのではないかというふうに考えております。一定程度の条件と言いましょか、年齢が何歳以上であるとか、今、畑野・田水・芋畑に対して要件というのもそうでございますが、日中その免許を持っておられなくて運転する親族の方が居られないとか、そういった要件を満たすというところを研究して、これはひいては全町的に考えなければ

いけない状況が発生しているのではないかなという事を考えております。

議 長 再質問ありますか。3番高良議員。

3番  
高良議員 分かりました、今から検討されるという事なので、課長が言われますように、いろんなパターンがあると思うんです。それでその中で検討されるという事ですので、なるべく大多数の方に網が掛かるような困っている人を救えるような方法を是非、考えていただきたいと思います。それで、もうひとつ思うのですが、各地区々にそうやって高齢の方でだんだん動けなくなるけれども、まだ施設に入るほどではないというような方が出てこられると思うんですが、こういう方を前にお聞きした弓市コンパクトシティ化構想で、高齢者もこの弓市に住めるような住宅を建設してはどうかというような話があったと思うんですが、そういう事についてはどう考えておられるでしょうか。

議 長 番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本まちづくり推進課長 具体的な事はなかなか示してなくたいへん申し訳ないと思っておりますが、ひとつの構想としてはもっております。

議 長 はい、3番高良議員。

3番  
高良議員 構想から一歩進めてはいただけないでしょうか。

議 長 番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本まちづくり推進課長 これはですね、いろいろな単純に高齢者住宅を建てるという思想だけではなく、やはり安心して住んでいただけるような仕組みを考えなければならぬというふうに考えております。具体的に言えば、医療に絡んでいただくとか、そういったところも含めての住宅、もちろん独居老人というのは町内、弓市地区以外にも非常に多くの方が住んでおられる事があります。そこで独居の方を中心にするのか、それとも世帯の方も居られますので、高齢者の方ですね。そういった両面からの住宅整備というのが必要であろうかというふうに考えております。そういった中においても、単純に家を建てました、入って下さい。定住促進住宅も若い方であればいろんな手段があるので、そういう移住に向けての社会増に向けての取り組みができますけれども、なかなか高齢者の方がお一人でお住まいになられるのも非常にたいへんなところがあるかと思っておりますので、そういったところは関係する機関との協議を進めて進行していくべきだというふうに考えております。

議 長 再質問ありますか。3番高良議員。

3番  
高良議員

夫婦で住んで居られる方は未だよろしいんですが、独居の方は非常に心配なところがあります。この度、選挙も近いですからいろいろ話を聞きに伺うわけですが、一人で居られる方は耳も遠くなって、テレビの大きな声は聞こえているんだけど、ぜんぜん中から戸を叩いても何をしても返事がないとか、そういう事もあります。また新聞等が取られずに溜まっていれば大丈夫なんだろうかと心配する事もございます。これは今から言うのは仮定の話ですが、例えばそういう独居の方は目が届きません。また周辺の地区の方は一軒家がけっこう多いんですね。そういうところは目が届きませんので、出来ればそういう方を説得して一緒に生活してもらえれば目も届きやすいしという事じゃないかと思うんです。それとそういう方をもっておられる、子どもさんが居られない方は致し方ないところですが、そういう子どもさんの方も出ておられてもやっぱり心配をされて、多少の費用が掛かってもというような話をされる方も中には居られます。その辺のところも含めて、これからこういうどうしても誰もがとおる事ですから、そういう高齢者が安心して住める町づくりの方を検討していただければと思います。あと、先ほど言いましたが移動に困難な方が楽に移動できるような手段についても良い知恵を出していただくようお願いして、この質問を終わります。

議 長

はい、番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

先ほども高齢者住宅建設の構想はあるという事で答弁をいたしました。担当課としてのものであります。当然、関係機関とも協議をしてみなければいけないということもありますし、予算措置も必要である。それからもし実行するとなれば、どういった補助があるかと検討も進めなければならぬということがありますので、あくまでこれは担当課としての構想であるというふうにご理解いただきたいと思っております。

議 長

この項目は終わってよろしいですか。  
（「はい」の声あり）

々

はい。以上で、2項目めの「高齢者の生活を守る施策について問う」の質問を終了いたします。

々

次に、3項目めの「人口問題について問う」に対する答弁をお願いします。  
番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

高良議員ご質問の「人口問題について問う」にお答えします。  
本町が、総合戦略に基づく人口減少の対策事業として取り組む、様々な施策のうち、大きな効果があるのが、定住促進住宅整備事業であると認識しております。平成26年度以降、三原地区に6棟、木路原地区に6棟、多田

番外杉本まちづくり推進課長 地区に7棟、因原地区に2棟を整備しましたが、合計で21世帯、72名の方に町外から移住していただいております。また、本町に地域おこし協力隊員として移住された方は、合計が26名であります。既に15名の方が任期を終えられ、その内、8名の方が町内で起業などにより定住されております。議員ご指摘の、報道による人口社会増の要因につきましては、対象時期に整備した多田地区の定住促進住宅に4世帯、14名の移住がありましたので、施策による効果は大きいと考えております。今後の人口減少問題に対する対策としましては、策定予定の次期総合戦略において、実施する施策を検討してまいります。三原地区に進出された企業には、30名の従業員の内11名の方が、町外からの雇用でありますので、例えば、従業員の方に希望があれば住宅を整備するという施策を検討し、企業支援に併せた移住を促進することや、地域おこし協力隊員の起業や雇用に向けた支援を充実することを視野に入れ、人口社会増を図りたいと考えております。

議長 ただいまの答弁に対して、質問がありますか。3番高良議員。

3番高良議員 定住促進住宅の影響がいちばん大きいと考えられるという事で、答弁をいただきました。という事であれば、この定住促進住宅というのも今後、建設は施策として続けていかれるのでしょうか。

議長 番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本まちづくり推進課長 来年度、令和2年度でございますが、令和2年度の2棟の建築というのは決定をしているところでございます。今ある敷地にもう2棟の建築予定としております。建築をしてですね、入居の方の応募を募るわけですが、今回の因原、ここにも10件の応募がございました。既に入居者を決めております。埼玉県の方と江津で、奥さんは未だ京都に居られるという方ですけれども、そこから合計9名の方が入居されるという事が決定しております。ただですね、やはり担当課としていちばん気にするのが、建てて非常に希望される方が多くあるわけですけれども、実際に来られた時に本町に来て仕事を探すであるとか、自分で起業するとか、多くの方がそういったところで見受けられるところがあります。これは非常に危険な事であると認識をしております。以前からそういった移住の窓口としては、かわもと暮らし情報センターを核として事業をやっているわけですが、必ずそこを経由して言い方は変ですけれども、ちゃんと就業の確約された方でないと、なかなか川本町というのは町に仕事も無しで来られるというのは非常に困難。それから運転免許が無いとかですね、そういったところを考えると、その先、来年もう一度1棟建てますので、状況を見る必要があると思っておりますが、10件の方が全て対象であるという事では無いという事をご理解いただきたいと思います。それで、先ほど言いましたように、実際に就業をされていて、本町に町外から

番外杉本まちづくり推進課長 通っておられる方が居られます。これは所謂、三原の企業の方であります。まちづくり推進課としてはですね、町内の人の雇用というのも勿論すごく大切なところでございます。若者が流出するのを抑えるための高校生の来年度の入社が決まっているという事を伺っておりますが、ひとつにはそういった方々に移住していただくという事の確立した就業場所があるというところがあります。先ほど言いましたように企業支援という意味も含めてですね、要はそういった企業に就業しておられる方が、川本町に移住するという事であれば、建築を推進するというような事も今後は考えて良いんじゃないかと。それでこの取り組みが間違い無く本町の社会増に繋がっているという事は間違い無いというふうに、思っておりますので、事業のやり方をどう検討していくかという事は課題になっていこうと思っております。

議 長 再質問ありますか。3番高良議員。

3番高良議員 良く分かりました。私もその方が正解だと思います。ぜんぜん来ていただいて無職でおられても困りますので、そういう考え方は非常に良い考え方だと思います。それは賛成するわけですが、そういう考えでやられて来年度は2棟建てられて、もしその後、続けようと、これは仮の話で未だそこまで考えていないと言われればそれまでですが、続けようという時には次は敷地の問題が出てくると思うんですが、それをどのように捉えておられますか。

議 長 番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本まちづくり推進課長 仰るとおりであります。多田の建築で広い面積の町有地というのが無くなったところがございます。ただ今可能性があるというふうに思っているのは、三原には道路を作った残土場があります。これは担当課にも何も話しているわけではありませんし、そういった広い土地を町有地として確保が出来るのであれば、そういった土地は候補に挙がるのかなど。それから今回、因原地区に民有地を購入して建設を進めました。民有地も購入して利便性の高い土地であれば家賃もちょっと上げたところなんですけれども、有効であるというふうに考えておりますが、その民有地を購入する価格というものひとつの要件になってこようかと思えます。当然、私もいろんな近隣の市町の同じような住宅を見るとですね、今回、因原で設定した家賃というのがだいたいマックスぐらいの金額であるというふうに思っておりますので、高額な土地を購入してまで民有地を購入するという事は考えてはおりませんので、今から活用できるだろう有効な町有地というのが候補に上がってくるというふうに思えます。今から造成されるそういった土地は活用できればなという事は考えておりますが、土の問題であったり、柔らかい土であるというような事もあったり。またそこにもそれをきちんとした土地にするのに非常にお金がかかるという事であれば、また少し考えなければならぬかも知

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長  
議 長

れませんし、そういった事を十分に、来年度中には検討したいというふうに思っております。

再質問ありますか。3番高良議員。

3番  
高良議員

これは分かりました。それでですね、私ちょっと思うんですが、例えば谷の住宅を解体して、ずいぶん更地になっていますが、あの土地の堤防を早くやって、あそこを内側を埋め立ててしまえば、けっこう広い面積が取れるし、今たいへんにあそこが寂しい状況です。見るからに寂しくなっていますので、そういう単に町有地とか空いている所に建てるという事もそれは安くついて良いんですけども、そういう谷の堤防というのは私は必要だと思うので、そういうところも絡めて考えると、或いは因原の前の因原踏切から川本側の線路敷等も使えるのではないかと見て通るわけですが、そういう事も含めてやっていただければどうかという考えを持っております。それともうひとつ、人口の定住という事で先ほどから堤防の問題が出ておりましたが、私が個人的にはこれは絶対にやらないと駄目だと思うんですね。何故かという東日本大震災で各々たいへんな被害を受けられて今、防波堤の大きな防潮堤ですか、それが出来ました。出来て内側も区画が出来ただけでも、誰も帰ってこない。帰って来る人がすごく少ないというのが現状です。これはやはり川本でも浸かってしまうと、一回どこかへ出なきゃいけないんですよね。一回出てしまうと、なかなか人が帰って来ない、来られないという現象が必ず起きます。それは確実に人口の減に繋がります。そういうのを防ぐ為にも堤防の強靱化は絶対に私はやらなければならない事だと考えております。この堤防の強靱化も必ず人口問題に結びつく事だと思いますので、是非、先ほど町長の答弁を聞いておりますので、答弁は求めませんが、本当に本気でやる気いただきたいと思っております。あと人口問題は他にも処々要件はございますが、例えば今、空き家がありますよね。先ほどから農業問題とかいろいろ出ているのを聞いておりますと、例えの話で申し訳ないですが、要は耕作放棄地を耕作していただければ、この空き家をただで貸しますよとかそういうふうな他のまちづくりさんひとつの事でなくて、その耕作放棄地の解消とかそういう事を絡めたような施策も執られてはどうかと思いますが、こういう発想は如何でしょう。

議 長

番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

実際にですね、今年度取り組んだひとつの取り組みとして、自治会に対して出向いて行って、自治会の人と一緒にどういった空き家があるかどういった活用ができるかというそういった話し合いも進めたところがあります。空き家もやはり有効な空き家があれば、それは町で管理とする地元の方にも管理を例えば、空き家をご覧になられた人が来た時にですね、よくあるのは草

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

が生えて非常にちょっと見た感じがよろしくないというケースもあります。どういった事のないように地元の人と協議して、地元でもやっぱり移住者が来られる可能性が高いので、やはりそこは強調して協同して生活をしていかななくてはならないという事もあるので、そういったところも踏まえて、自治会の中にひとつの自治会に入って今進めているというところもあります。仰られるようにそういったところには自治会の方から、空き家だけじゃないよと畑もあるよ、田んぼもあるよというような話もあつたりしますので、ここは担当課だけそれといった空き家に向かっていくのではなくて、自治会の方にも協力をいただきながら進めていくべきだというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。3番高良議員。

3番  
高良議員

分かりました。3つの質問をしたわけですが、その各々1つずつではなしでトータル的に広い目で見えていただいて、連携出来るものは連携する。要件から外さなければいけないものは外す。入れなければいけないものは入れるというような事を、トータルで考えて施策を推進して行ってほしいと、新しい町長には思っております。町長さん、よろしく申し上げます。最後に一言、所信を。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

高良議員からの3点のご質問の中で、いろいろと新たな提案もいただきながら、私もしっかりと受け止めたところでございます。特に仰いました事をしっかり意識して、トータルで可能なそして定住の効果、特にご質問がありました社会増の効果のところは私、これは前三宅町政の成果だというふうにも受け止めておりますので、再度、来年の計画の策定・戦略の中で、もう一度、他の施策を分析しながらいただいた提案を受け止めて、更なるまちづくりに繋がる施策に努めてまいりたいと考えております。

議 長

3番高良議員。

3番  
高良議員

野坂町長が副町長として川本へ来られました年には、私は新米の一年生議員で6月に一般質問をしました。その時に川本大橋の歩道橋問題で、その時に行政はお節介と思われるほど手を出していかないと住民の安心と安全は守れないという話をしました。私のこの気持ちは今も変わっておりませんので、是非、新しい施策を町民目線で町民の為に進めて欲しいと思います。これで終わります。

議 長

はい。以上で、3項目めの「人口問題について問う」の質問を終了いたします。

議 長

これもちまして、高良議員の一般質問を終了します。